

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



## ぽかぽか言葉「かっこいいね」



言われて心が「ぽかぽかする言葉」を使って、お友だちと上手に関わるようになってといいですね。2学期のスタートに、子どもたちにおすすめした言葉が「かっこいいね」でした。



何かに一生懸命取り組むことが人としての「格好良さ」と考えて、たとえ子どもであってもどんな姿がかっこよく見えるのか、感じて、考えて、まねて欲しいと思いました。運動会は、そういった姿がとても見えやすい場面です。



成長の過程は千差万別。まだピンと来ない子もいますが、いつか来ます。運動会では、どこがどうかっこよかったか、たくさん見つけて家庭でもしっかり褒めて下さい。

## プロフェッショナル「仕事の流儀」

お誕生日会のおやつ。9月は、なぜブドウなのだろうか？ブドウは決して安くない。粒の大きな種なし巨峰。本当はブドウでなくても構わない。けれどもそこには、ブドウであることの「メリット」があった。（**ここから、NHKプロフェッショナル「仕事の流儀」のBGMをイメージして下さい！！**）

ブドウは、粒を数えることができる。1個、2個、3個……。子どもたちは自分の分を、数えながら取る。順番に取るグループもあれば、せーのでむしり取るグループもある。子どもたちは、みんなの皿を見まわし、数を比較する。4個入っている子を見つけ、「あ、〇〇くんだけ4個や！」と、すかさず不平等を指摘する。ハッとして、小さいのを皿に戻す。



皆が3個ずつなら平和。ところが自然物は、割り切れるものではない。房に2個余っている。保育者はにやりとする。

**ここに、「仕事の流儀」がある。**保育者は決して「こうしなさい」と答えを言わない。必ず、一度子どもたちに考えさせる。なぜなら、これは子どもたちの問題だからである。話し合い、工夫して解決し、子どもたちが納得することが大事。そのプロセスが学び。そう考えているのである。「にらめっこで決める！」「1つぶを4つに切ったらいい！」子どもたちの辞書に「不可能」の文字はないらしい。保育者は、そんな子どもたちの願いを支えることが、心から楽しいと言う。

**プロフェッショナルとは、「子どもたちの力を信じて待つ」こと。**信じているから待てる。子どもたちの日々の生活の中に「課題」が生まれることを期待し、生まれた「課題」を見逃さず「学び」に変える。優れた保育者の保育には、全て意図が隠されている。だから、ブドウなのである。

保育者は言う。こちらの意図を、いい意味で裏切ってくれる子どもたちにこそ、成長を感じる・・・と。

保育者は、今日も、子どもたちとの丁々発止の駆け引きに心躍らせ、笑顔で保育室へと向かう。（♪あと一歩だけ、前に 進もう！）



### Progress 作詞作曲スガシカオ

（プロフェッショナル「仕事の流儀」のテーマ曲）

ぼくらは位置について  
横一列でスタートをきった  
つまづいている あいつの顔を見て  
本当はシメシメと思っていた  
誰かを許せたり 大切な人を守れたり  
いまだ何一つ サマになっていやしない  
相変わらず あの日のダメな ぼく



ずっと探してた 理想の自分って  
もうちょっとカッコよかったけれど  
ぼくが歩いてきた 日々と道のりを  
ほんとは「ジブン」っていうらしい

世界中にあふれているため息と  
君とぼくの甘酸っぱい挫折に捧ぐ・・・  
“あと一歩だけ、前に 進もう”